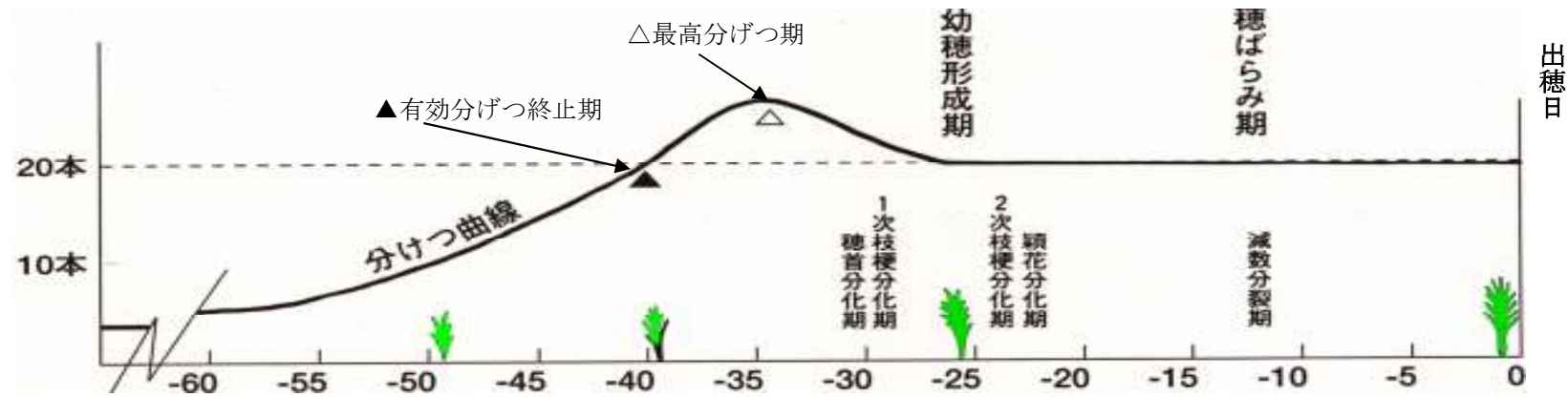


カルテック農法

多肥品種用

キヌヒカリ、どんとこい、新千本、日本晴、あきたこまち等にお使
いください。

微生物・カルシウム利用の美味しい米作り



コラム 『地力づくりと施肥量』
 ①稲ワラを持ち出し、他の有機物が入らない場合、なるべく高刈りとし、硫安と共にモミガラや米ヌカ等を施用します。
 ②基盤整備直後の田では、硫安は不要、ラクトバチルスは米ヌカ5kg程に混ぜて散布し、カルテックCa粒状を3袋とします。
 ③堆肥を施す場合やレンゲ・大豆後の場合、また野菜後や休耕田の場合は、硫安は不要で、ラクトバチルスは600gを米ヌカ5kg程に混ぜて散布し、カルテックCa粒状3袋とします。
 ④麦ワラを鋤込む場合は、ラクトバチルス600g、硫安15kg（又は尿素8kg）とします。

(10アール当たり)

生育相	田植え	出穂50日前	出穂35日前	出穂25日前	出穂10日前	出穂日	穂揃い後10日頃
生育予定日例(キヌヒカリ)	5月20日頃	6月20日頃	7月5日頃	7月15日頃	7月31日頃	8月10日頃	
作業内容	自圃場						<注意>予定日は出穂日から逆算して下さい。
資材	地力づくり ラクトバチルス 400g 硫安 10kg カルテックCa粒状 2袋 元肥なし	[分けつ肥] 硫安 10~20kg	[つなぎ肥]	[穂肥] 尿素 4~6kg	[登熟促進資材] カルテックCa粒状 2袋	出穂日とは圃場全体の稲が40~50%出穂した時です。	*メガデルトン・ネオスリー *カルテックCa液状 葉面散布するときわめて効果的です。
管理作業	●もし、一般の複合肥料を使う場合は施用量を2/3に減量。 ●株間は出来るだけ広く。 ●1株の植え込み本数は出来るだけ少なく。2~3本	●目安として1株が 9本以下の時は 10kg 10~13本の時は 15kg 14本以上の時は 10kg ●この頃20本以上か、又は出穂45日前に葉色が濃い場合は、過剰分けつ抑止のため、ラクトバチルス200g~400gを砂か土に混ぜて(団子で)畔まわりから投入します。	●-50日に分けつがとれて硫安が与えられず、この時期に色が褪めてきた場合は、硫安5kg与えます。 この頃、必ず溝切り実施。穂肥前、必要があれば中干し小ヒビが入る程度とし、すぐに水を張る。	●もし葉色が濃くても穂肥を施したい場合は、尿素にラクトバチルス200g混ぜて下さい。 ●食味向上に重要 ●イモチがついたり、倒伏の恐れがある場合は、更に1~2袋増量する。 ●カルテックCa粒状を散布する時は、足跡に水がある程度で散布し、軽く干す。	●開花期は色が褪めていても良い。 ●登熟を揃って促進、特に葉色が濃くイモチの心配がある田では、カルテックCa液状 ●葉色が薄く、秋落ちの心配がある田では、メガデルトン・ネオスリー ※どちらも500倍で10アール当り100~150リットルを葉面散布		
備考	育苗時、健苗くんセットを使用して根張りと活着を促進させる。 この間のショボショボの寂しい姿を我慢してください。			尿素を散布する時は多少、水を多目に張って散布する。			